

辰野会長が玄関先に現れると、10歳年上の家主は用向きも聞かず「まあ、あがって飲みなさい」と招き入れた。竹田津流「人づきあいは、一献交わすところから始まるのが常なのだ。酒が進むにつれ初対面の緊張はほぐれたものの、このとき辰野会長は内心、「こんなに純朴な人に写真を借りたいというビジネスの話をつ切り出せばいいのだろうか」と思いあぐねていたという。ついには言い出すことができないまま腰を上げかけたところで、「ところで君らの用事はなんだったんだ？」という竹田津氏の一言ですぐに話がまとまった。

こうしてキタキツネが運んでくれた縁に導かれ、この日から「なんとなくウマがあった」二人の交流が始まった。町内には「小清水自然と語る会」が全国に建設を呼びかけたナショナル・トラスト「オホーツクの村」があり、ここが開村二十周年を迎えた節目にも辰野会長の惜しまぬ尽力があったと、竹田津氏が明かしてくれた。

「フレンドタウン」として初めに取り組んだ事業は、浜小清水駅前にもンベルストアとビジターセンターの複合施設「小清水ツーリストセンター」を建設すること。「人口5千人のまちに出店して、キツネやエゾモモンガが買いに来てくれるのか」という冗談めかした関係者の不安は、2018年の4月14日、「モンベルオホーツク小清水店」開店初日に押し寄せた人だかりを見た瞬間に吹き飛んだ。

町民はもちろん、網走や北見、遠くは帯広からも押し寄せた人でレジ待ちが2〜3時間となり、吉村太郎店長をはじめスタッフは嬉しい悲鳴をあげたほど。結局初日は3千人近くが訪れ、その後も客足は落ちることなく初年度の来店者数は約22万人。道東一帯で待ち望まれた開店であったことを証明する出足となった。

さらに特筆すべきことは、同店では農業を主産業とする小清水町のために農作業用のつなぎなどフィールドウェアを充実させている。開店初

「村役場」にするログハウスを建てるのが決まったとき、私が以前辰野さんのログハウスに泊めてもらい、とても快適だったことを思い出したんです。それで辰野さんに相談したら、フィンランドのログハウスメーカーの窓口になってくれて、しかもマージンをとらずに一切の手続きを引き受けてくれた。辰野さんという人はそういう人。だから僕も彼との友情をとっても大事にしているんです」

フィンランドから来日したログビルダーの指導を受け、村民が力を合わせたログハウスは、見事完成。2001年10月に行われた二十周年村祭りには会長も参加し、新しい「役場」の誕生を皆と一緒に祝ったという。

**開店初日に3千人が殺到 初年度の来店人数22万人**

モンベルと小清水町——昭和に始まった長年の交流を会長自身から聞かされた小清水町は、あらためてこの縁を深めたいと、オホーツクエリア

日に地元のプロデューサーをモデルにしたファッションショーも行った。生産者応援の姿勢を打ち出した。

吉村店長によると、モンベルストア全店の中でもフィールドウェアの売上はオホーツク小清水店が常に一位あるという。他にも定期的に登山やカヌー・カヤック初心者向けのセミナーを無料で開催し、地元の人々が気軽に来店できるきっかけづくりを続けている。

**近隣自治体と協力して 一大プロジェクト始動**

小清水町のモンベルフレンドタウン協定は、じきにオホーツクエリア全体に大きなうねりを生み出す着火点となった。オホーツク小清水店オープンの前日には、小清水に続いて網走市も同社と包括連携協定を締結した。これにより隣接自治体同士、肩を組んで挑む

次の大きな目標が定まった。モンベルが2009年から全国各地で展開している「シートウサミット」のオホーツク

初となるモンベルストアの出店や今後の連携を依頼した。その熱意をくんだ同社の合意を得て2016年9月、小清水町は晴れて「モンベルフレンドタウン」に登録。翌2017年6月には、エコツーリズムを通した地域経済の活性化や環境保全意識の醸成、子どもたちの生き抜いていく力の育成などを視野に入れた包括連携協定へと発展した。



モンベルオホーツク小清水店。同じ建物内に町営の「ビジターセンター」が併設し、アウトドアやエコツーリズムの情報発信拠点になっている。

初開催である。

同社ではこのイベントを「人力のみで海（カヤック）から里（自転車）、そして山頂（登山）へと進む中で、自然の循環に思いを巡らせ、かけがえない自然について考えよう」という環境スポーツイベント」と位置付け、鳥取県の皆生（かいけ）・大山（だいせん）からスタート。北海道は2011年から大雪旭岳で始まり、北海道の雄大な自然を楽しみたい参加者に好評を博していた。

網走市と小清水町を会場とする2自治体共催の「シートウサミット」が実現すれば、オホーツクエリアのアウトドアシーンやエコツーリズムを盛り上げる大きな刺激になる。さらに辰野会長から「綱網本線を使ってみては？」というアイデアも飛び出し、「シートウサミット」史上初となる特別列車を使う一大プロジェクトが動き出した。



「シートウサミットオホーツク」開催同日、北見市・大空町とモンベルの包括連携協定締結式が行われた。立会人は久保弘志小清水町長と水谷洋一網走市長。辰野会長は「今後は2市2町のフレンドエリアとして、ともにアウトドアの魅力を広めていきましょう」と呼びかけた。



モンベルオホーツク小清水店の吉村店長が手にしているのは、同店限定のオリジナルTシャツ。限定Tシャツがある店は全国でも限られているという。

